

J R田沢湖線盛岡・大釜駅間新駅整備事業について

平成31年3月6日
建設部

1 主旨

J R田沢湖線盛岡・大釜駅間の新駅については、周辺地区の急激な市街化により、平成12年度以来、地元から新駅設置の要望や署名活動が行われている。

市では、当地区の交通状況から、J R田沢湖線を活用した公共交通利用促進対策として、新駅を「もりおか交通戦略」に位置付け、J R東日本の協力により、将来乗車人員の推定と概算事業費の算出や、事業の費用対効果の検討を進めてきた。

これら調査検討の結果では、新駅により一定の乗車人員の需要が見込まれ、駅設置の周辺地区への波及効果による便益など、費用に対する十分な効果も期待されている。

一方で、平成30年度まちづくり懇談会を契機に、地域の課題解決に向け、土淵地区の均衡あるまちづくりを考える懇談会が開催され、その説明のなかで、まちづくりにおける、新駅の地域の拠点と賑わい拠点としての役割が再認識された。

したがって、これまでの新駅の設置可能性調査の結果及び、新駅の地域のまちづくりにおける役割を踏まえ、新駅設置を事業化するため、J Rとの協議を推進していくものである。

2 経緯

- ・平成24年度 基本計画調査を実施（J Rへ依頼）
- ・平成27年10月 新駅誘致実現推進会から5,000人超の署名簿とともに要望書が提出される
- ・平成29年度 J Rへ依頼し、基本調査設計を実施（概算事業費算出）
- ・平成30年5月 概算事業費に基づく費用対効果を算出
- ・平成30年5月 土淵地区まちづくり懇談会で地域に説明
- ・平成30年7月 総合交通施策懇話会に事業の妥当性を諮問し、妥当と認められた。
- ・平成30年11月 第1回土淵地区のふれあいと賑わいのあるまちづくり懇談会で地域に説明
- ・平成31年1月 第2回土淵地区のふれあいと賑わいのあるまちづくり懇談会で地域に説明

3 事業概要

- ・新駅位置 J R田沢湖線 盛岡・大釜駅間（別図参照）
- ・主な施設 駅舎（待合室）、ホーム、駅前広場（駐輪場、トイレ、一般車降車場）
- ・概算事業費 約11億円と試算
- ・効果等 利用乗車人数 1,300人弱、費用対効果 B/C=1.8
- ・その他 新駅を中心としたバスルート再編を検討し、鉄道と連携した交通網を形成する。

4 今後の予定

平成31年度は、JRへの新駅設置の請願を行い、地元説明を進める。

平成32年度からの詳細設計や用地買収、整備工事に向けJRとも協議し、平成35年3月末の新駅開業を目指すものである。

JR田沢湖線盛岡・大釜駅間新駅整備事業 位置図

